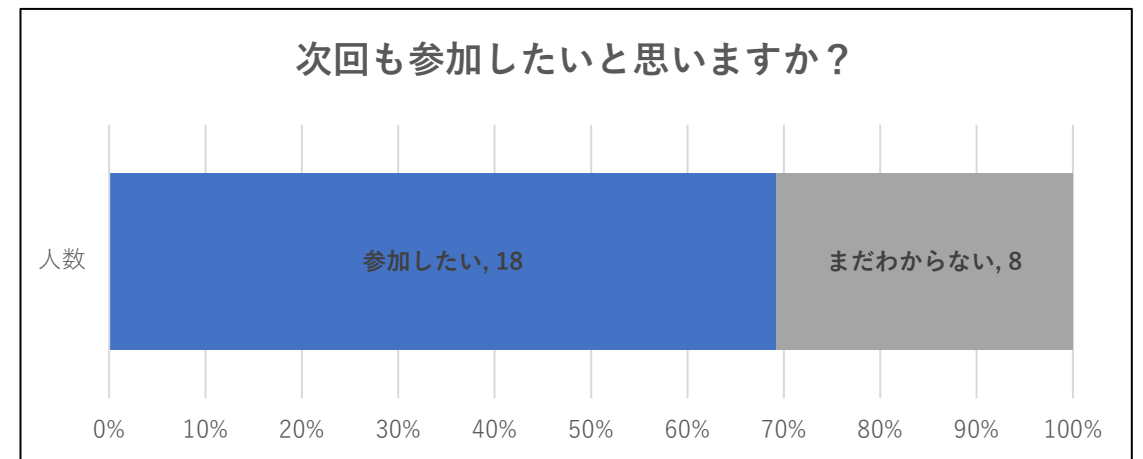
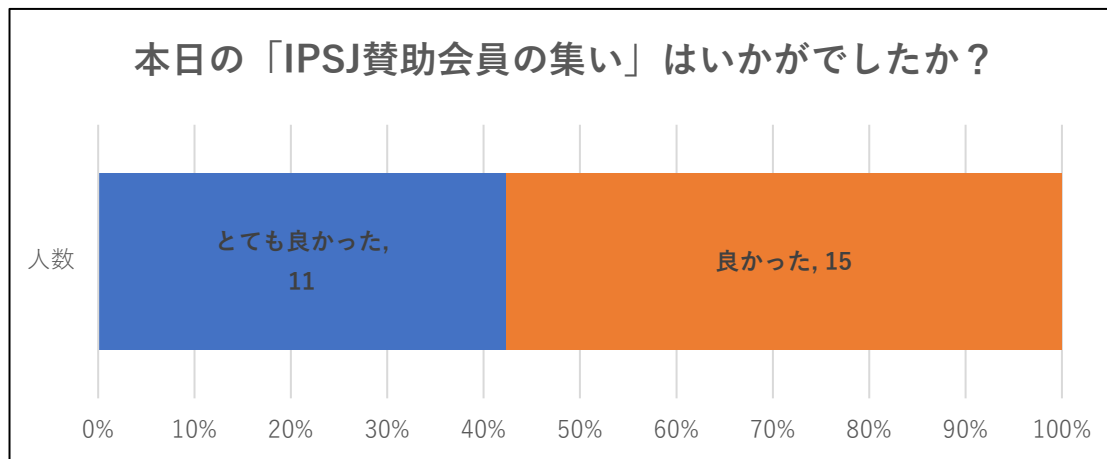


# 第8回IPSJ賛助企業との交流会 －DX人材育成－ 開催レポート

- ・ 開催日時:2024年2月15日(木)15時～17時
- ・ 参加人数:39名、うちアンケートご回答数:26名



# 第8回 IPSJ賛助企業との交流会ーDX人材育成ー

## 【2024年2月15日(木)15-17時】

司会 情報処理学会 技術応用理事  
吉濱 佐知子(アマゾンウェブサービスジャパン)



オープニング 情報処理学会 技術応用理事  
小川 秀人(株式会社日立製作所)



講演1 株式会社ギブリー 新田 章太 様  
「ギブリーの会社紹介とDX推進に必要な新卒社員研修の事例  
・注カポイントご紹介」



学会からのお知らせ 事務局長 木下 泰三



講演2 paiza株式会社 小倉 直樹 様  
「プログラミング学習の裾野を広げる paizaのIT人材育成エコシステム」



クロージング

**Givery** Growth for the Future

# 情報処理学会交流会 DX推進に必要な新卒社員研修の事例 注力ポイントご紹介

**HRテック事業「Track(トラック)」** **Givery**

## EMPOWER ENGINEERING

テクノロジースキルを経営資源に

**採用** **育成**

クレントプール 採用スクリーニング 育成・研修 スキルアセスメント

**Job** **Test** **Training**

Track Job: HRテック事業の採用スクリーニング業務を支援するプラットフォームです。採用プロセスの効率化とコスト削減を実現し、企業と求職者のマッチングを支援します。

Track Test: プログラミングスキルを測定するためのオンラインテストプラットフォームです。企業は簡単にスキルレベルを確認でき、採用プロセスを効率化します。

Track Training: 企業向けに生成AIに関する研修プログラムを提供するプラットフォームです。最新の技術と実践的なスキルを習得し、企業の競争力を向上させます。

**Agent** by Track **Bootcamp** by Track

Trackのコアテクノロジー  
プログラミングスキルの可視化

**Track Academy【生成AIエンジニアコース】** **Givery**

企業でエンジニアとして働く方を対象に...

## Track Academyから 生成AIエンジニアコースが開講!

**カリキュラム**

- 生成AI概論
- プロンプトエンジニアリング
- LangChainによる開発(RAG開発)
- LLM開発(ファインチューニング)
- AIネイティブ開発 他

完全オンライン型で、**これからのエンジニアに必要な生成AIエンジニアスキルを学ぶことができます。**

**ポイント1: 新入社員に求められる新たなスキルを再定義(共通)** **Givery**

まずは新たな領域に対して、自社でどこまで新入社員に求めるかを検討する

デジタルスキル標準の改訂(要領) (2023年8月)

**【スキル・知識項目】**

- AIの概要理解
- 生成AI活用(プロンプト作成)
- プロンプトエンジニアリング
- 生成AI開発(RAG開発)

**ポイント2: 新入社員に求められる新たなスキルを再定義(職種別)** **Givery**

AI活用レベルを具体的なスキルマップに分解し職種別に必要なスキルを定義

企業によるテキスト生成 AIの活用				活用に必要な人材		
AI活用レベル	活用の方法	LLMの精度向上手段	精度向上に必要なコンテキスト量	職種	代表的なスキル	重要なスキル・知識
LEVEL1 業務の効率化	Use GAI AIを活用した日常業務	In-Context Learning	↑ 少 ↓ 多	ビジネス	プロンプトエンジニア	生成AIの基礎、開発、利用におけるリスク等 ビジネスAIの活用(専門性) プログラミングの基礎 課題発見解決、コミュニケーション
LEVEL2 AIモデルの実用化	AI Orchestration 独自ワークフローの構築を用いた機能性の向上	Retrieval Augmented Generation 検索拡張生成		ビジネス	プロンプトエンジニア	生成AIの基礎、開発、利用におけるリスク等 ビジネスAIの活用(専門性) プログラミングの基礎 課題発見解決、コミュニケーション
LEVEL3 独自AIモデルの開発・調整	Build GAI 用途特化型の新モデル開発	AI開発 Fine tuning		ビジネス	プロンプトエンジニア	生成AIの基礎、開発、利用におけるリスク等 ビジネスAIの活用(専門性) プログラミングの基礎 課題発見解決、コミュニケーション

**ポイント4: アセスメントでスキルを可視化する** **Givery**

新たな求められるスキルセットに対して、学習対象者(内定者など)がどの程度前提知識やスキルを持っているのかを正確に把握し学習目標を立てる

**ポイント5: カリキュラムを更新する** **Givery**

職種・AI活用レベルに応じたカリキュラムの更新をおこなう

AI活用レベル	活用の方法	LLMの精度向上手段	精度向上に必要なコンテキスト量	職種	代表的なスキル	重要なスキル・知識
LEVEL1 業務の効率化	Use GAI AIを活用した日常業務	In-Context Learning	↑ 少 ↓ 多	ビジネス	プロンプトエンジニアリング	生成AIの基礎、開発、利用におけるリスク等 ビジネスAIの活用(専門性) プログラミングの基礎 課題発見解決、コミュニケーション
LEVEL2 AIモデルの実用化	AI Orchestration 独自ワークフローの構築を用いた機能性の向上	Retrieval Augmented Generation 検索拡張生成		ビジネス	プロンプトエンジニアリング	生成AIの基礎、開発、利用におけるリスク等 ビジネスAIの活用(専門性) プログラミングの基礎 課題発見解決、コミュニケーション
LEVEL3 独自AIモデルの開発・調整	Build GAI 用途特化型の新モデル開発	AI開発 Fine tuning		ビジネス	プロンプトエンジニアリング	生成AIの基礎、開発、利用におけるリスク等 ビジネスAIの活用(専門性) プログラミングの基礎 課題発見解決、コミュニケーション

**ポイント3: 必要「習熟度レベル」を定義する** **Givery**

研修カリキュラムを構築する際には「習熟度レベル」を想定する研修で身につけさせるべきか、OJTでおこなうべきかを整理する

習熟度レベル	概要	研修での実施内容とゴール
a	高い実践力と専門性 どこからでも教えることができる	実務経験(OJT)による現場からの高い評価
b	一定の実践力と専門性 考えなくてもできる「仕事を任せられる	プロジェクト型の実践演習の実施と総合評価
c	説明可能なレベルで理解 考えとできる、指導をうけながらできる	アウトプット型のワークと評価
d	位置づけや関連性の理解 知っていてもできない、単語は知っている	講義とクイズによる習熟度チェック

**ポイント5: カリキュラムを更新する: すべてのビジネスパーソン** **Givery**

生成AIの概要・利用における問題点・リスク・マナーやコンプライアンスなど情報リテラシーも含め総合的なボトムアップをおこなう

